

大学生の下宿先としての空き家活用に関するアンケート調査結果について

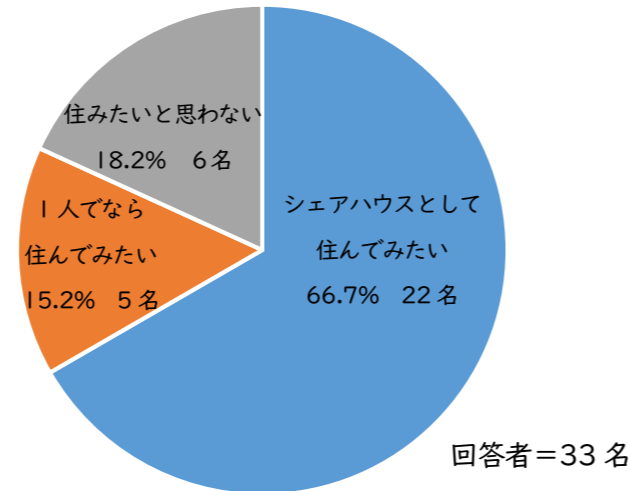
令和3年10月に、帷子地区の虹ヶ丘にある岐阜医療科学大学の学生580名に対し、下宿先として空き家に需要があるかどうかのアンケート調査を実施しました。

今回の調査は、今後下宿を検討している学生が、空き家を活用した借家やシェアハウスに入居することへの興味や、下宿先の住宅に希望する条件などについて回答していただきました。

下宿先となる住宅の候補について

下宿で一軒家の住宅に住む場合、条件が合えばシェアハウスとして何人かで住んでみたいと回答した学生が66%程度ありました。また、1人でなら住んでみたいという回答も15%程度あり、学生の下宿先として空き家を活用できる可能性があることがわかりました。

また、現在実家などの自宅から通学している学生のうち、検討中を含め今後下宿する予定のあると回答した学生は、9名で回答者の15%でした。



希望する立地について

大学からの距離は2キロ以内、西可児駅付近にあるスクールバスのバス停からは1キロ以内が良いという回答が多くあり、大学や西可児駅にはより近い方が良いという結果になりました。

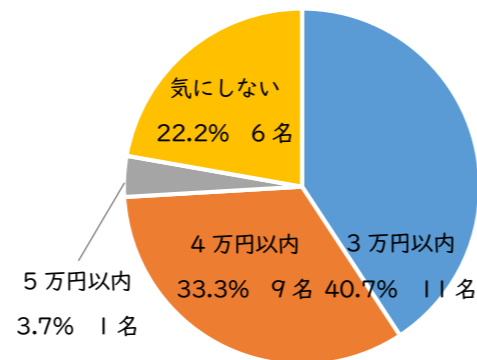
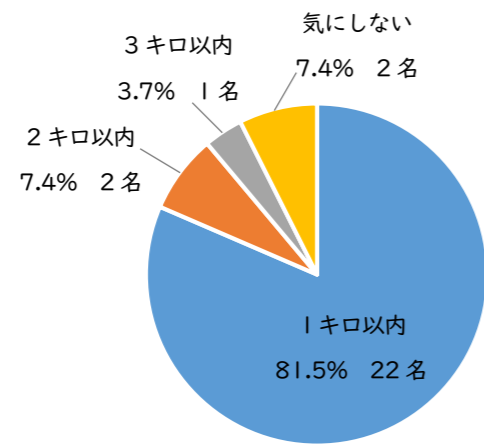
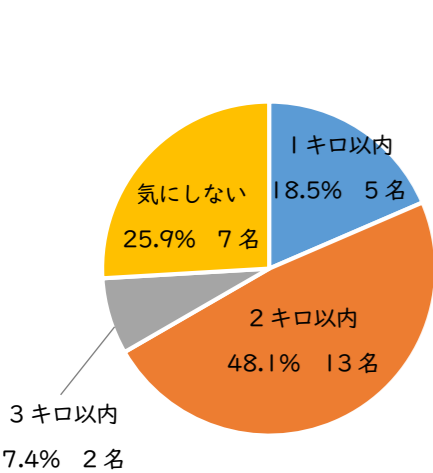
希望する家賃（月額）について

3万円から4万円程度を希望する学生が多く、それ以上はほとんどありませんでした。市内にある1人用のアパートも月額3万円から4万円程度の物件が多く出ており、アパート並みの家賃をイメージしていることがわかりました。

希望する立地
(大学からの距離)

希望する立地
(西可児駅からの距離)

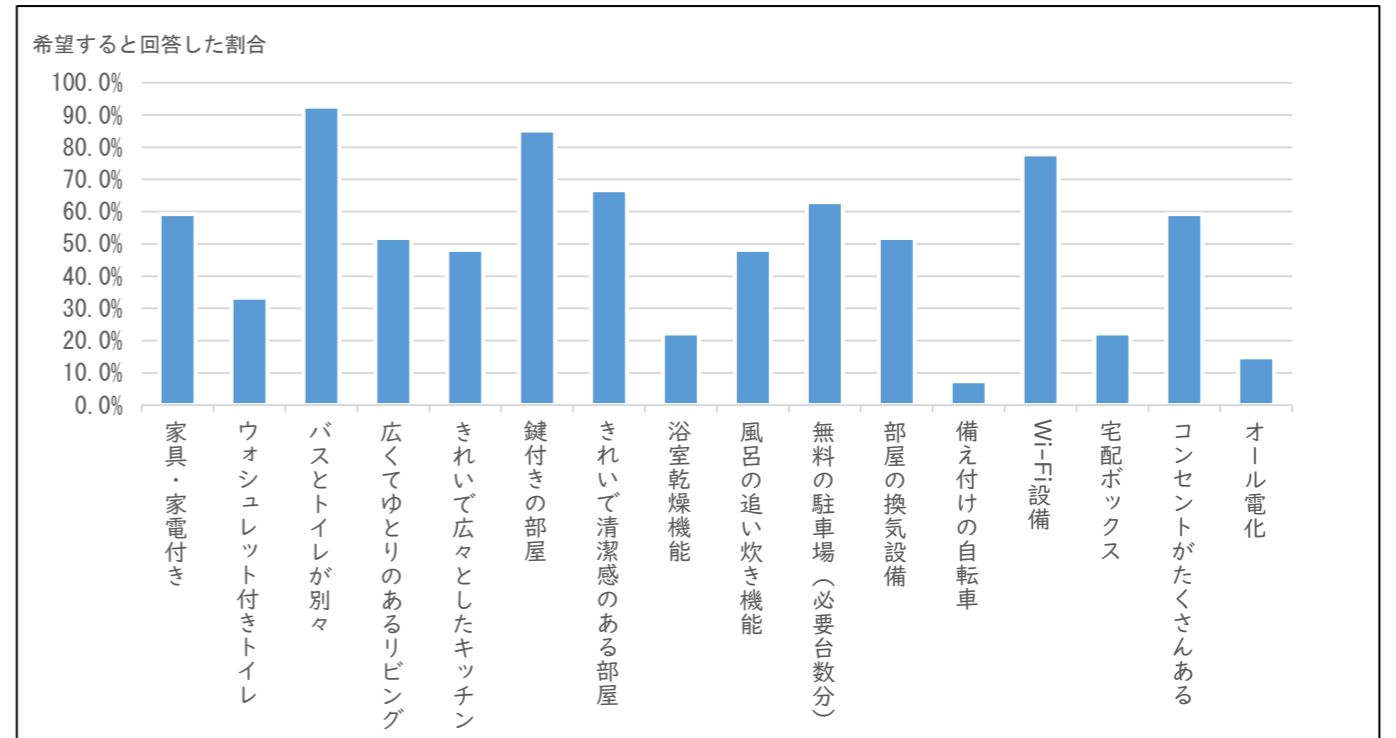
希望する月額家賃の額



回答者=各27名

希望する住宅設備について

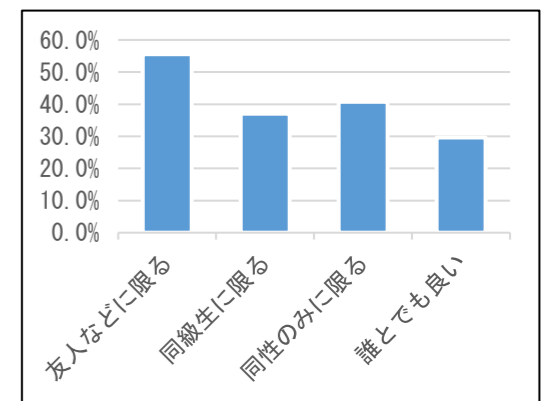
住宅に付帯していて欲しい設備について、以下のものを調査しました。(複数回答)



これらの希望を踏まえて空き家を学生に貸し出す場合は、Wi-Fi 設備(インターネット)や家具・家電の準備、その他の設備のリフォームなどの費用が掛かることが考えらる。また、シェアハウスとして貸し出す場合は、鍵付きの部屋や広いリビングやキッチン、必要台数分の駐車場などが希望条件として挙がってきており、法的な設備の整備もあることからリフォーム費用がより高額になる可能性があります。

同居する入居者について

シェアハウスとして住む場合に同居する入居者の条件について、友人などに限るという回答が55%ほどで(複数回答可)同級生や同性に限るという回答も多いことから、入居者の入れ替わりによる退去の連鎖の発生や、新規入居者の募集が難しくなることが予想される結果となりました。



入居の契約期間について

契約期間については、6ヶ月更新を希望する学生が最も多かったですが、1ヶ月や3ヶ月を希望する回答もあり、比較的短期間での入居を希望する学生が多いという結果となりました。

